

樹上で活動する哺乳類

「ほっとやまはく」

タイム④



時も枝先から隣の木の枝先に渡ります。好物のヤマモモなどの実が赤く熟すと、木がサル群れでだんご状態になります。谷を隔ててサルたちが樹上で採食している姿を見るのは感動的です。

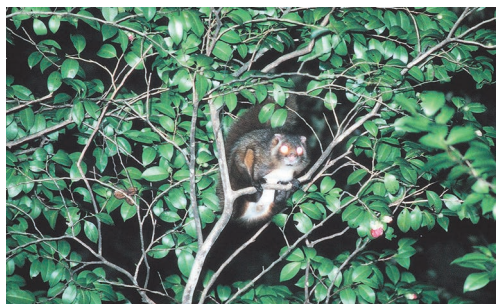
ニホンザルは雑食性で、自分たちの行動圏内に利用できる植物や昆虫などの動物がどのように分布しているのかを、長い年月をかけて熟知していると考えられます。季節に応じて、その時期に豊富にある動植物を求め、移動しながら食べま



採食するニホンザル

ムササビ

ムササビは、げっ歯目リス科の哺乳類で、鼻先から尾の付け根までの頭胴長は約40センチ、尾の長さ約35センチ、体重約1キログラムで、樹上性の哺乳類の代表です。首から前肢、前肢から後肢、後肢から尾の途中まで、滑空するための飛膜が発達しています。この飛膜により、地上に降りることなく移動できます。県内では森が広くつながる里山から奥山ま



ヤブツバキの木に採食に来たムササビ

で広く生息しています。

ムササビは昼間、大木の樹洞で休息し、日没後に活動を開始します。植物食性動物で、樹木の葉、花、実などを季節に応じて食べます。食べる葉や実の付いている枝を鋭い前歯で切り、前肢で持つて食べます。ムササビはすべてを食べ尽くすのではなく、必要な部分のみ食べ、残りを食痕として樹の下に落とします。これらの食痕により、食性と行動圏を推定しています。



ヤマモモの食痕、枝の切り口は斜めになっているのが特徴

ニホンモモンガ

ニホンザルは、霊長目オナガザル科に属し、群れで生活する哺乳類の代表種です。サルたちはするすると木を登り、樹冠で採食を行います。移動

特定できたことで、自動ビデオカメラで観察できるようになりました。

ニホンモモンガもムササビと同じリス科の哺乳類です。ムササビより小さく、頭胴長約15センチ、尾の長さ約12センチ、体重約200グラムです。標高の高い山域に生息しています。ムササビ同様飛膜を持ち、滑空します。樹上での動きが早く、夜行性であり、その実態はほとんど分かっていませんでしたが、定点観察を行っている周南市鹿野の調査地で、昼間寝ている樹洞が



巣箱に興味を持ったニホンモモンガ

ニホンテン

特定できたことで、自動ビデオカメラで観察できるようになりました。

ニホンテンは食肉目イタチ科の動物です。雄の頭胴長は約47センチ、尾の長さは約19センチ、体重は約1キログラムです。雌はやや小さく体重は約1キログラムです。山際の家屋の天井裏に住



巣箱をおつニホンテン

森には普通に生息しているテンですが、野生下での子育てについてはほとんど分かっていません。研究のための雌の追跡が難しいのが一因かもしれません。自然の中で動物たちがどのように生活しているのか？動物たちの生活を理解するための調査は続きます。

田中浩（動物担当学芸員）

▽次回は10月11日です。

山口県立山口博物館
TEL 083-922-0294
月曜休館（祝日の場合は翌日）。
最新情報はホームページで

